



青山学院初等部

学校案内



目次 ※クリックすると各説明のページに移ります。

1.	青山学院初等部の教育内容	4
	【サーバント・リーダーの育成】	4
	【食育】	4
	【パートナー制度】	5
	【日常評価と三者面談】	5
2.	教科の紹介	6
3.	プロジェクト活動	16
4.	クラブ活動	18
5.	一日の生活の流れ	19
6.	一年間の流れ	21
7.	宿泊行事	23
	【1年生 なかよしキャンプ（1泊2日）】	23
	【2年生 農漁村の生活（春1泊2日 秋2泊3日）】	24
	【3年生 山の生活（3泊4日）】	24
	【4年生 山の生活（3泊4日）】	25
	【5年生 海の生活（5泊6日）】	25
	【6年生 洋上小学校（8泊9日）】	26
	【3～6年生 雪の学校（4泊5日）】	27
	【オーストラリアホームステイ】【イングランドサマープログラム】	27
	【止揚学園】	28
	【フィリピン訪問プログラム】	28
8.	学級と校舎・児童在籍数	29



「かけがえのないひとり」

何を「学力」とするかは、これからも社会の変化と共に変わっていくことでしょう。しかし、青山学院初等部の教育は変わることはありません。「青山学院初等部が開校当初より大事にしている価値観は、どんな時代、社会にあっても決して揺らぐことがなく、必要とされる教育である」という自信、そして確信が私たちにはあります。

毎年の入学式、そして機会を見つけて「あなたがた一人ひとりが青山学院初等部です」というメッセージを子どもたちに伝えています。そうです、いつでもどこにいても、学校にいても家庭にいても、大切な青山学院初等部の子どもたちなのです。一人一人の子どもたちが、この青山学院初等部の主役です。これからも子どもたち一人

一人と繋がり、「かけがえのない一人」として大切に考えていきます。

毎日、子どもたちの明るい姿や笑顔に元気をもらっています。どんな時でも、青山学院の建学の精神であるキリスト教信仰と教育方針に堅く立ち、一方で、新しい時代に生きる子どもたちを見据え、社会と時代の要請に応えていきます。88年の歴史を大切にしながらも、柔軟に、新たな学びを取り入れながら青山学院初等部ならではの質の高い教育をこれからも作り続けていきます。

「学力」よりも「学習力」

日本の教育はかつて画一的、均一的でした。社会においても、個性や多様性が積極的に求められることはなく、決められた時間内に与えられた課題をこなす力が「学力」であり、それができる人間が「良い人材」と言われてきました。しかし、グローバル化や少子化、超高齢化社会、地球温暖化、AI（人工知能）、ICT活用、SDGs等がキーワードになって久しい現代の日本では、学力の意味も大きく変わっています。与えられた問題の正解に最短でたどり着く力よりも、正解のない問いにどれだけ多くの考え方を提示できるか、社会問題にどんな問いを立て、どのように自分なりの答えを作り出していくのか——そんな知的・社会的能力が必要とされる時代になっています。つまり「学力」よりも「学習力」です。



受けた教育は決して失われないものです。SDGsの目標の4番目に「質の高い教育をみんなに」とあります。受けた教育は虫に食われることも、盗人に盗まれることもありません。お金は使えばなくなりますが、物は古くなれば、傷みます。しかし、受けた教育は失われません。

学校は友人や先生との出会いの場であり、人間関係の中で様々な経験をする場でもあります。ものの考え方を身につけ、人生において大事にしたいことをそれぞれ学びます。多くのことを吸収できる若い時にできるこれらの経験は、子どもたちの財産になります。温かい思い出は人生を豊かにし、子どもたちの一生を支える人生の土台となります。親として子どもにしてあげられる最大の贈り物が教育です。

“感じ・考え・学習する” 学びのサイクル



しかし、現代社会には膨大な情報とモノがあふれています。本物と偽物との区別はしにくくなり、明確な夢は持ちにくくなり、他者との比較にあふれ、子どもたちを含めて自尊感情が低くなりやすい環境と言えるでしょう。その中であって青山学院初等部の教育は、「かけがえのないひとり」に対して「神様から与えられた賜物を生かす」教育を一番重要と考えています。

一方的に知識や技能を授けるのではなく、その子ども自身の内側で、“感じ・考え・学習する”、この学びのサイクルが生まれるような教育活動を大切にしてきました。自分の価値、神さまから与えられた賜物を知って育った子どもたちは、自分の使命（ミッション）を見出し、自信を持って、自分の力（価値）を進んで人と社会に広く生かしていくようになります。これが新しい時代、未来を創造していく「サーバント・リーダー」の考え方です。これらのことは、青山学院初等部がキリスト教学校として果たすべき、人として重要な「人格」教育にも継がれています。

5つのおやくそく

本校では、「親切にします」「正直にします」「礼儀正しくします」「よく考えてします」「自分のことは自分でします」という、5つの生活指針「5つのおやくそく」を大切にしています。1946年、前身の緑岡小学校が校名を変えて、青山学院初等部としての歩みが始まった年に、この「5つのおやくそく」もできました。

それから長い年月、教育の本質として大切にしてきました。全て「します」という表現になっているのは、学校からの押しつけではなく、自ら進んで行動の指針としてほしいという願いが込められているためです。「自分はどのように生きていきたいか」、これは日々の礼拝や学校活動を通して子どもたち一人一人に考えてほしいことであり、わたしたち教職員自身も考えていることです。



1. 青山学院初等部の教育内容



【サーバント・リーダーの育成】

「サーバント・リーダーシップ」という言葉は、企業のリーダーシップの類型として紹介される言葉です。しかし、この言葉は実はキリスト教のリーダーシップ精神を表す言葉で、トップダウン型のリーダー像ではなくボトムアップ型のリーダー像を表しています。つまり、人びとの前に立ち、その権力でチームを引っ張るリーダーではなく、縁の下の力持ちとしてチームを支えるリーダー。これはまさに「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」（マルコ 10：45）と語り、弟子たちの足を洗ったイエス・キリスト自身のリーダーシップと重なります。また、「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆のしもべになりなさい」（マタイ 20：26—27）というイエスの教えからもそのことが伺えます。



青山学院のスクール・モットーは「地の塩、世の光」です。立場や年齢と関係なく、誰でも「地の塩」として周りの人たちに貢献し、サーバント（仕える者）として役割を果たすことができます。また、「世の光」としての生き方は他の人を導く輝きを持ちます。これこそが、サーバント・リーダーの生き方です。

【食育】

生活の一部である食事大切な教育の場と考えています。「身体だけではなく心を育てる食事」とすることを目指しています。

1年生のはじめ、かんたんな軽食で給食の準備の仕方や食べ方、片付け方、ルールを学んでから給食はスタートします。その後、教室給食や二学年が合同で食事をいただく食堂給食を通して、さまざまな場所での食事の準備の仕方や片付けの方法、マナーについて学びを深めていきます。



また、6週間に一度、学年ごとに頂く木曜ランチオンでは、食堂が「青山レストラン」へと変わります。ふだんは六学年分の給食を作っているスタッフの力をその一学年のためだけに集中して作られた特別な料理を食べながら、テーブルマナーや会食の楽しみ方、おもてなしについて学んでいきます。

【パートナー制度】

本校では、1年生が入学すると、2年生のお兄さんお姉さん、6年生のお兄さんお姉さんとそれぞれペアを組みます。これを「パートナー」と呼んでいます。2年生は身近なお兄さんお姉さんです。いっしょに学校探検をしたり休み時間に遊んだりする中で、1年生は遊び方や学校生活のおやくそくを学び、少しずつ学校に慣れていきます。6年生はあこがれのお兄さん・お姉さんです。プロジェクト活動や運動会などで最上級生として活躍する6年生のパートナーと遊ぶ時間が1年生は大好きです。そして、6年生のお兄さん・お姉さんにとっても、五年前に自分たちが当時のパートナーのお兄さんお姉さんにしてもらったことを1年生の教室で自分のパートナーにしてあげられることは喜びでもあり学びでもあるのです。



20ぶんやすみ、6ねんせいのきょうしつ
でやすまさんにあいこにきました。だっこ
してもらったからうれしかったです。

ほんとうのおにいちゃんみたいです。

(1年生児童)

今日あしたの学校たんけんのれんしゅうをしました。
あしたは1年生に「わからなかったらいつてね。」と
さいしょにおうとおもっています。ろうかはしずか
にするよとおしえてあげます。まだ先だけどすてきな
2年生になってほしいから、ぼくもいろんなことをおし
えてあげたいです。(2年生児童)

【日常評価と三者面談】

初等部では「日常評価」と「三者面談」に力を入れています。

本校では、子どもたちの成長のために「学校任せ」「家庭任せ」ではなく、学校と家庭とが「車の両輪」となって子どもたちの成長に関わっていくことを大切にしています。そのため、プリントや小テストを通して子どもたちの日々の取り組みを日常的に評価し、家庭に知らせています。また、ノートや課題についても事前指導の上、日々の成長を丁寧に評価することに力を入れています。

また、学期末に「三者面談」をおこなっています。子ども、保護者、担任の三者で、子どもの学習や生活の現状を確認し、今後取り組みたい課題とその具体的な方法を確認していきます。

全学年、面談の一週間ほど前から授業時間を使って子どもたちはその学期の自身の取り組みについて振り返り、「成長の記録」という資料にまとめます。1・2年生は保護者の方と一緒に記入しますが、3年生以上は自分で下書きをし、清書をして面談に臨みます。面談後、面談をふり返って次の学期や学年に向けての決意を書き記し、目標の達成を目指して日々取り組み、定期的に振り返るルーティンを作っています。「先生がこうなさいと言ったからやる」では、子どもの心は成長しません。自身の良かったところ、良い取り組みができなかったところを客観的に評価し、できなかったところはその改善策まで考えるこの取り組みによって、子どもたちはいわゆるPDCA(Plan→Do→Check→Act)サイクルを体感的に学んでいます。





全ての学習の基盤として

国語は全ての学習の基盤であると考えています。「相手を受けとめ、自分を伝える力を育てる」ことを目標とし、楽しく学ぶ授業を心がけています。正しい言葉の使い方を身につけるために、教科書だけでなく、独自教材『国語のしおり』を使用し、作文の書き方や言葉のきまりも詳しく学びます。



日記・作文



毎日日記を書いています。自分が経験したことや感じたことを文章に書き表すことで、もう一度その日の出来事について深く考えることができます。また、文章を読んだ人とその経験を分かち合うこともできます。毎日こつこつ続けることが力になります。日記への返事として、保護者とクラス担任がコメントを書きます。それが子ども・保護者・教師、三者の心の交流にもなっています。また、作文教育にも力を入れています。児童の優れた作文を選び『児童文集』を毎年発行しています。

音読・詩の暗誦

文章を音読することでより深く意味を味わい、表現する力がつくと考えています。そのために授業でも家庭でも音読の機会を多く設けています。

ひと月に一つ、季節や子どもたちの歩みに合った詩を暗唱する取り組みを全学年で行っています。毎日声に出すことが上達の秘訣です。





知る

社会科では、知識を受け取るだけでなく、子どもたち自身が「なぜだろう」「知りたい」という気持ちを持って社会と出会うことを大切にしています。社会科の学習が始まる3年生が初めてするのは、学校周辺のフィールドワークです。いつも見ている学校の周りにたくさんの社会科的な気づきがあることを知ります。机上の学習に留まらず、実際に見に行ったり関係者をお招きしてお話を伺ったりする活動を学年問わずに多く取り入れています。

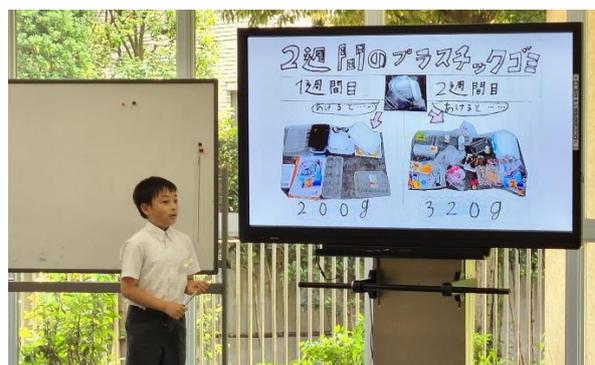


広げる・深める

発表やレポートのテーマはこちらから提示するのではなく、子ども達自身が考えます。子ども達が「もっとくわしく知りたい」と感じられるような授業展開を心がけています。また、「調べる」「まとめる」ツールとして、主に4年生以上においてタブレットも活用しています。「小グループで意見をまとめて発表する」といったように、自分の考えを持ち、それを共有する教育活動を大切にしています。

発信する

社会科では知識を受け取り、疑問に思ったことを調べ、自分で考えることが大切です。そして学びを内に留めるのではなく、発信していけるようにすることを目指しています。学習した内容を元にテーマを決め、さらに調べてまとめ、学習発表会などの場で発表します。水やごみの問題、青山学院についての歴史などを伝えているほか、都道府県や工業の学習では発表を元に学習を行っています。



算数

ひとりで学ぶ、みんなで学ぶ

数学的な思考の土台となる計算力や数感覚を養うことや、学習習慣を身につけることを大切にしています。

また、学校ならではの「集団での学び」も大切にしており、共に学びながら、友だちの意見に耳を傾けて自分の考えに取り入れたり、考えを人に伝えたりする言語活動を重視しています。

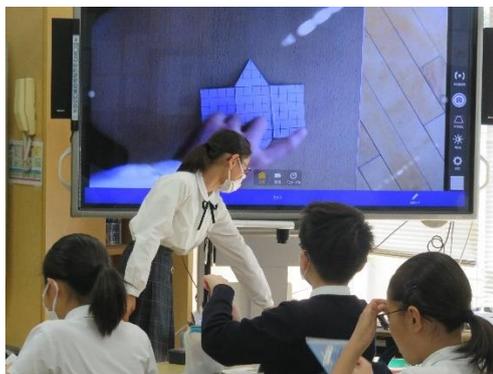


具体物からの学び

「数学的活動」とは、児童が目的意識をもって主体的に取り組む活動を意味しています。数や図形の性質を探したり、学んだ知識をもとに少し難しい問題にチャレンジしたりという試行錯誤によって子どもたちの算数的なものの考え方は磨かれます。また、具体物にふれ、操作をする活動であるハンズオンマスと言われる学習方法は特に大切にしています。

タブレットの活用

「児童一人ひとりをいかす授業」をテーマに、ICT 機器（電子黒板やタブレット）等も用いながら、子どもが主役になる授業を展開しています。自分の考え方をタブレットで撮影して全体に共有したり、全員の考え方を電子黒板上に並べて比較したりとさまざまな使い方を工夫しています。





『見つける』

子ども達は『見つける』天才です。
何気ない日常の中でも未知を見つけ、「なんで」「どうして」と疑問を持ちます。疑問とは、物や現象に対する積極的な興味です。子ども達が積極的な興味を抱けるように、初等部の理科では自身の五感を活用出来るような実物との出会いを大切にしています。



『広げる』

五感を活用して発見したことは、周りの人に言語や図などの表現を通して共有することで自分の中で客観的に捉え直すことが出来ます。

また、他の人から自分にはない発見や考え方を聞くことで自分の認識を更に『広げる』ことにつながります。こうした捉え直しによって得た知識はただの文字ではなく科学的概念を含んだものとして残っていきます。

『深める』

『広げる』ことで得た知識は、子ども達の「活用してみたい」という心をくすぐります。好奇心に満ちた彼らに対して初等部が行うのは、その背中を押してあげることです。

「知識」は活用することによって「知恵」へと深まっていき、自らが身につけた力へと定着していきます。そしてその力と経験が、また新たな興味を『見つける』原動力へと繋がっていくのです。





DEVELOPING GLOBAL AWARENESS

Our goal for our English classes is to help students develop global awareness through our SEED Book and other fun activities in class. Our students also have the opportunity to apply for international programs in Australia, England and the Philippines to further encourage their learning.



生活

出会いからの学び

～見てみようやってみよう～

神さまとの出会い、人との出会い、自然との出会い、社会との出会い、自分との出会い、手のしごとを柱にして、学習を進めています。毎月のお散歩、植物を育てること、お掃除の仕方など学校生活をより豊かにするための授業です。2年生、6年生のパートナーといっしょに遊んだり学んだりもしています。2年生になると、宿泊行事の農漁村の生活（春）（秋）に向けて調べ学習をしています。

手のしごと

手を使うこと。それは、子どもの興味関心を深め、経験を豊かにすることです。手を使うことは、巧緻性を高めるだけではなく、脳や感覚を磨くことに繋がります。色塗り、はさみを使ってカードをつくる、くさり編み、こま回し、お手玉、肥後守を使った鉛筆削り、ひも結びなど、手を多く使う経験をしています。



本物にふれる

青山学院初等部の図工は、本物の自然、材料、道具に触れ、《今その年頃でしか描けない（作れない）その子どもらしい作品を、萎縮することなく、瑞々しく表現できる自由な創造の場であり、時間であること》を最大の目標にしています。

図工



相手の表現の良さを知る

作品制作（紙、木、粘土、陶芸、竹、砂、金属、革を使った工作や水彩画、版画など）を通して自分の良さや友達の良さに気づき、互いに認め合える感性を育むことを大切にしています。芸術作品の鑑賞や、キリスト教をテーマにした作品を制作する機会もあります。

体育

さまざまな場所を使っでの運動

基礎的な運動能力を身につけ、生涯にわたって運動を楽しむ基礎を培うことを目標に、芝生の校庭、プレイルーム、屋上、ウッドデッキで、身体慣らしや走・跳運動、鉄棒や跳び箱等の器械体操、球技等を行っています。運動会の他、駅伝大会など行事も多く設定しています。

体を動かすこと=楽しいこと

体育では仲間とともに協力しながら体を動かし、楽しみながら技術技能を自ら養うことを大切にしています。健康・安全について学びながら、粘り強く取り組むこと。そして自分の身体を知り、動かすことを楽しみ、健康に生活できる力を育てる授業を目指しています。



水のある体育館

初等部はプールを「水のある体育館」として活用しています。可動床（0cm～130cm）の室内プールで、1年生の水慣れからスタートし、様々な遊びや水球等を行いつつ、四泳法（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の習得を目指します。学年や指導内容に応じた深さで、教員・スタッフとともに安全に楽しく水と親しみます。



水泳

水泳学習の集大成～遠泳～

5年生で、長崎県平戸市の人津久浜で遠泳を行います。（→P.25 海の生活）学校のプールのコースロープをはずし、長い距離を平泳ぎで泳ぐ練習を積み、人津久浜に出発します。美しい海で、泳力別に約1km～2kmのコースに分かれてチームで励まし合いながら完泳を目指します。

コンピュータ

アナログも、デジタルも

低学年でアナログメディアのよさや読み書きの基礎をしっかり学び、3年生から1人1台、タブレットを使って学び始めます。「何でもデジタルが良い」ではなく、アナログとデジタルをきちんと使い分けられる人材を育てています。基本的なWORDやPOWER POINTの操作方法はもちろん、Adobeの動画編集ソフトなども使い、教科の学びに活かすと共に自分の考えを表現する方法を学んでいきます。

プログラミング思考

「物事を順序立てて論理的に考える力」「自分が意図する活動を実現するための組み合わせや改善方法を考える力」であるプログラミング思考を育てるためのプログラミング教育にも力を入れています。コンピュータの授業だけでなく、子どもたちの学び道具として各教科でタブレットを活用しています。



Teams の活用

Microsoft365を活用して、児童と教員はTeamsを通して繋がっています。クラスや教科からの連絡がTeamsに送られます。児童は家に帰ってTeamsを開いて学校からの連絡を見たり、課題に取り組んだりしています。Teams内でファイルを共有することで学校外でも授業のフォローをすることができます。

デジタルで作る良さ

タブレットを使って様々なカード・時間割など生活に関わる物を作り、活用しています。手書きとはちがったデジタルならではの良さを体感しています。また、高学年になるとそれぞれのテーマについてネットや書籍から情報を集め、まとめたことをPower Pointで発表する共同学習も行っています。



キリスト教信仰に基づく教育

初等部ではキリスト教の信仰にもとづく教育を行っていますが、教義を理解させることに目的を置いていません。キリスト教精神をからだで享受してもらうため、家族や卒業生と共にまもる「クリスマス讃美礼拝」、「イースター礼拝」をはじめ、母の日の「お母さんへの感謝のつどい」や、卒業生を招いて信仰にもとづく献身の話を聞く「花の日礼拝」、毎月の「誕生日礼拝」など、行事を大切にしています。また、3年生以上は週に一回宗教の授業を行い、「神の前に真実に生きるとは」ということについて聖書を元に考える時間としています。

宗教



死海の塩実験



音を楽しむ

初等部の音楽教育では、楽譜を読めることや楽器が弾けることよりも、本当に大切なことは「音を楽しむ」と考えます。音を聴くこと、歌うこと、演奏することを楽しみ、さらにそれを深めることで、音楽の持つ力を知ることができます。低学年では十分に音楽に親しみ、楽しめます。そして、中学年、高学年と学年が上がっていく中で、子どもたちは周りの人と一緒に音を出し、ハーモニーを作ることができた時の驚き、喜びを知ります。そのような音楽体験と感動を繰り返すことで、より美しい音を出したいという欲求を持つようになります。生涯に渡って音楽を味わい、楽しめる心、その元となる「種まき」をすることが、初等部の音楽科が目指すものです。

音楽

礼拝賛美

初等部では礼拝から一日が始まります。キリスト教と音楽が深い関係であるように、毎朝の礼拝では必ず讃美歌が歌われています。音楽の授業でも讃美歌を歌うことをとても大切にしています。「初等部さんびか」にある数々の歌い継がれてきた讃美歌や、キリスト教暦に沿った讃美歌を6年間を通してたくさん扱うことにより、子どもたちにとって祈りに欠かせない讃美歌がより身近なものとなっています。また、中学年以降では教会音楽には欠かせないハンドベルやハンドチャイムを経験します。皆で讃美歌を演奏することで、豊かな音の響きを味わい、全員で協力してひとつの音楽を作り上げる喜びを知ることができます。



習字

習字の授業

4年生で学習します。硯で墨をすることから始め、毛筆でひらがなや漢字を正しく美しく書くことを学びます。姿勢を正して真摯な態度で心を込めて書きます。文字の成り立ちにも触れ、日本の伝統文化をつなぐという誇りを持って取り組みます。自分の名前を小筆できちんと書くことにも力を入れています。

手習いと目習い

毎回、提出された作品の中から各クラス 12 名ずつ作品を選び、優秀作品として掲示しています。子どもたちは自分の作品が選ばれると喜んだり、友達作品を見て「うまいなあ」「ここがいいなあ」と良いところに気づいたりします。冬休みの書き初め課題は全員分を掲示します。習字は「手習い」とも言いますが、この活動は手で習うだけでなく目でも習う「目習い」にもつながっています。



読書の授業

人は、生まれたときから言葉に囲まれて育ちます。文字の読み書きはできなくても、聞いたり話したりする経験を重ねて成長していくのです。

1～3年生は、読書の授業を通して本の楽しみを味わいます。同時に、本から情報を読み取り、記録する「調べ学習」も段階的に取り入れています。

読書

「本は友だち」

初等部独自のおすすめ図書リストを作成し、児童に配付しています。「1年生」「2年生」「中学年」「高学年」の4段階に分かれており、それぞれの時期に触れてほしい本を紹介しています。



3. プロジェクト活動

毎週、特別活動として「プロジェクト活動（総合活動）」という活動をおこなっています。児童会活動に当たる時間ですが、特定の児童が担当するのではなく、「学校みんなのために働く時間」として、5・6年生全員が週1時間、希望登録制で以下のプロジェクトに分かれて学校のために活動しています。



本の貸し出し（学習センタープロジェクト）



ノート販売（販売プロジェクト）



美化活動（環境プロジェクト）



行事の打ち合わせ（5年プロジェクト）



ラジオ体操（運動プロジェクト）



礼拝奉仕（宗教プロジェクト）

保健プロジェクト

防災プロジェクト

6年プロジェクト

新聞プロジェクト

給食プロジェクト

放送プロジェクト

SDGsプロジェクト

ホームページプロジェクト

デジタルインフォメーションプロジェクト

今日は、五年プロジェクトであいさつのことについて考えましたが、家でも考えてみました。笑顔であいさつされるとうれしくなるし、自然と自分もあいさつできるようになります。

どうしてあいさつが大事かも考えました。

- ・みんなが気持ちのいい学校生活が送れる。
- ・知らない子などと仲良くなれる。
- ・あいさつをしていると下級生もまねしてよりよい学校になることができる。

どうしたら、みんながあいさつをするかは難しいです。わたしは、一週間の終わりにみんながあいさつをできたか、いろいろな先生方に聞いてみるのはどうかと考えてみました。みんなであいさつをして、よりよい気持ちのいい学校生活を送りたいです。(5年プロジェクト児童)

今日の給食プロジェクトのときに、来年プロジェクト活動が始まる四年生が見学に来ました。給食プロジェクトは、給食キャラクター(キャロラビ・くまたん・ライディーなど)を作り、キャンペーンを企画したり、新メニューを考えたりします。グループの仲間と協力して、みんなに喜んでもらえるように活動します。案をいっぱい出したり協力して何かを作ったりするのが好きな人におすすめです。また、給食のことが大好きな人もです。給食室の方が作っている様子など、ひみつにせまれることもとても良いです。

それに自分が考えたメニューが給食に出るととてもうれしくなり、みんなおいしいって言ってくれるかなどときどきします。楽しいだけではなく、企画力やプレゼンカも身につきます。ぼくは給食プロジェクトに入って、日々の給食のありがたさを改めて感じました。この話を聞いて少しでも興味が湧いた人はぜひ給食プロジェクトに入ってください。(給食プロジェクト児童)

今日は新聞プロジェクトがありました。私が今日やったことは、連さい「先生たちの自まん話」の記事をフリクションペンで清書して、漢字にふりがなをふることです。新聞プロジェクトは、先生やお友だちに取材をし、下書きを書き、先生に見せた後で、直しをして清書用紙に書きます。一見大変そうに聞こえるかもしれませんが、取材内容によっては、ふだんしゃべらない先生が笑いながら質問に答えてくださって楽しいです。書くのが苦手でも、案外書けてしまい、気がつくとき文字オーバーしていることもありました。もしも、足りなかったら絵でうめちゃって良いのです。

わたしはこのプロジェクトが大好きです。最初は心配していましたが、書き方や取材の仕方について動画で学ぶこともできるので知識がなくても大丈夫だし、先輩も助けてくれます。(というかわたしが来年6年生になったら助けます)自分の書いた作品を全校の人に見せたい人や文が上手になりたい人にはおすすめです。(新聞プロジェクト児童)

4. クラブ活動

12のクラブがあり、放課後を中心に活動しています。一年間に一つ選んで所属します。クラブへの登録は自由ですが、クラブ登録率は95%をこえています。クラブの中には、聖歌隊やハンドベルクワイアといった礼拝で奉仕をするクラブもあり、本校の特色の一つと言えます。



運動会での演技（トランペット鼓隊）



合宿（ラグビー部）



留学生との交流（英語クラブ）



ツーリング（自転車クラブ）



礼拝での奉仕（ハンドベルクワイア）



通常練習（女子スポーツクラブ）

聖歌隊

美術クラブ

アマチュア無線クラブ

水泳クラブ

アウトドアクラブ

わくわく作ろう！クリスマスクラブ

わたしは今、せい歌たいの練習をしています。そのとき、『大切なもの』という題の合唱曲を歌うことになりました。歌詞に感動する言葉がたくさんあって、一つ一つむねにしみこんでいくようでした。せい歌たいは私にとっての「大切なもの」だな。私は、この曲をきいたときに心のそこから思いました。（3年生）

今日のはじめてのクラブ活動でした。わたしはトランペットこたいです。いろいろな楽器がおいでありました。チューバ、ホルン、トロンボーン、トランペット。わすれてしまったけれど打楽器もありました。ぜんぶやってみたいです。上きゅう生もたくさんいて、みんなやさしそでした。早くなかよくなって、いろいろと教えてもらいたいです。（3年生）

5. 一日の生活の流れ



8:25

8:50

8:50

9:10

9:10

9:50

10:00

10:40

礼拝



朝の読書・HR



1 時間目



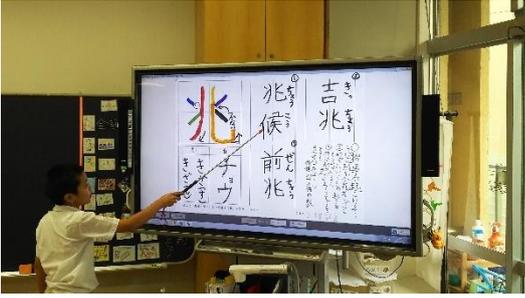
2 時間目



休み時間



3 時間目



11:00

11:40

11:50

12:30

4 時間目



昼休み



5 時間目



給食



13:40

14:20

14:30

15:10

6 時間目



6. 一年間の流れ

詳細な説明のある行事は、写真をクリックすると説明のページに移ります。

<p>4月</p>	<p>入学式</p> 	
<p>農漁村の生活・春（2年生）</p> 	<p>春の遠足</p> 	<p>5月</p>
<p>6月</p>	<p>洋上小学校（6年生）</p> 	
<p>なかよしキャンプ（1年生）</p> 	<p>海の生活（5年生）</p> 	<p>7月</p>
<p>8月</p>	<p>オーストラリアホームステイ</p> 	<p>イングランドサマープログラム</p> 
<p>農漁村の生活・秋（2年生）</p> 	<p>秋の遠足</p> 	<p>9月</p>

<p>10月</p>	<p>山の生活（3年生）</p> 	<p>山の生活（4年生）</p> 
	<p>運動会</p> 	
	<p>国内短期留学（止揚学園）</p> 	<p>11月</p>
<p>12月</p>	<p>クリスマス讃美礼拝</p> 	
	<p>駅伝大会（4～6年生）</p> 	<p>1月</p>
<p>2月</p>	<p>雪の学校（3～6年生）</p> 	<p>水泳大会（5・6年生）</p> 
<p>卒業式</p> 	<p>フィリピン訪問プログラム</p> 	<p>3月</p>

7. 宿泊行事

1年生から宿泊行事が始まります。青山学院初等部では、6年間で50日を超える宿泊行事を経験します。子どもたちは、6年間の宿泊行事の中で、日常生活では味わえない体験や出会いを通して、「協力して生活する力」「協力してやり遂げる力」「責任を果たす力」を学ぶとともに、多くの感動を経験します。6年間の宿泊行事とともに喜びを分かち合い、困難を乗り越えてきた経験は、自身の生活力としてだけでなく、どんな場でも他者と協力して生活していけるといふ、いわば「生きる力」として実を結んでいきます。なお、現在おこなわれている宿泊行事の多くは、1970年ごろから始められたものです。そこから50年を超える年数を積み重ねてきました。歴史の積み重ねに甘んじることなく、現在も毎年試行錯誤を繰り返しながら、さらによいもの作り上げていくための努力を続けています。

◎各学年宿泊行事

1年	なかよしキャンプ（清里）	1泊2日		
2年	農漁村の生活（館山）	春:1泊2日 秋:2泊3日		
3年	山の生活（黒姫）	3泊4日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
4年	山の生活（高遠）	3泊4日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
5年	海の生活（平戸）	5泊6日	雪の学校（黒姫）	4泊5日
6年	洋上小学校（日本近海）	8泊9日	雪の学校（黒姫）	4泊5日

【1年生 なかよしキャンプ（1泊2日）】

入学後、最初に行われる宿泊行事が、なかよしキャンプです。保護者の元を離れ、集団で生活をするオリエンテーションキャンプとして行われます。

プログラムのメインは、キャンプの最後に行われるキャンドルサービス。青山学院の校章の形「信仰の盾」の意味を宗教主任より聴き、「信仰を盾として取りなさい。」（エフェソの信仰への手紙6章16節）のみ言葉を暗唱します。

初等部では、1年生が迎える初めてのキャンプを全教員で迎え、6人の児童に対して1人の教員という割合で、キャンプを過ごします。また、4月に入学して3か月を経た子どもたちが、新しい人間関係をつくる機会として、様々な出会いを経験します。



きょうはペンダントをつくりました。すごくたのしかったです。てんとうむしグループはななにんいます。わたしはひとりでねられないけど、がんばってねてみようとおもいます。



きょうはかわへいきました。かわがつめたすぎてはやくあるけませんでした。さかなはいませんでした。あといしをひとつもってかえりました。ふくがいつばいぬれました。

【2年生 農漁村の生活（春1泊2日 秋2泊3日）】

2年生では、生活科のプログラムとして、春と秋の2回に分け農漁村の生活を行います。春にさつまいもと落花生の種を植え、秋に収穫をします。収穫したさつまいもはお土産にもなりますし、1年生のパートナーへのプレゼントにもなります。また、地域の方との交流も大切にしており、毎年フィールドワークを行っています。



今日は、さつまいものなえをうえました。はつばを土の上に出してきを下にしてうえます。1年生がよろこんでくれるとうれしいので、大きいさつまいもができるといいな、とおもいながらうえました。みんなにまけないくらいのさつまいもをとりたいです。パートナーさんまっけてね。



今日は、フィールドワークをやりました。花クラブという花のうかに行きました。ポピーのたねはこしょうみたいでした。こしょうくらい小さいたねがあんなに大きくなるのがびっくりです。

そして、すすきさんののう家にさつまいもとらっ花生をしゅうかくに行きました。らっ花生は、はつばをぜんぶまとめてぬきます。かたいので立ってぬきます。おいもは、ちょっと手でほってからぬきます。はやくおうちにもってかえって、おりょうりをしたいです。

【3年生 山の生活（3泊4日）】

3年生では、仲間と協力して生活すること、自分自身の生活力を高めること、秋の野山を楽しむことを目的として、3泊4日の山の生活を行います。長野県の黒姫の自然の中で、登山、野外料理を行い、集団生活を営みます。低学年のときに身につけた生活力を土台にして、一人では困難なことも、仲間と力を合わせて乗り越えていく経験をしていきます。



今日、登山をしに行きました。すると、目の前に滝がありました。なえな滝です。水がたくさんとんできました。

「気持ちいい。」

とつぶやきました。なぜなら、山を登って、とてもあせをかいていたからです。

「ここまでとどくんだ。」

自然はふしぎでした。

今日は、はじめて野外調理をして、切ったり、かわをむいたりことができました。でも、たまねぎのかわをむくときに、たまねぎは目にしみて、もうなみだが出そうでした。家で練習した時よりしみました。切るのが終わっても、まだ目がひりひりしていました。でも、がまんしてがんばって切って作ったカレーはとてもおいしかったです。

【4年生 山の生活（3泊4日）】

4年生では、3年生の時よりも一歩深い、長野県の高遠の自然の中で、自分からすすんでできることを増やすことも目的に加えて山の生活を行います。登山のコースや野外調理の難易度も上がりますが、時には楽しみ、時には苦しみながら、児童それぞれが自分にできることをすすんで行うことで、3泊4日乗り越えます。自然の中に神様を感じながら、仲間と力を合わせて過ごす経験を積み重ねていきます。



今日は、山の生活1日目です。きのうの夜はねむれないぐらい楽しみでした。バスで3時間かけて着いたのは、長野県高遠です。東京都は全くちがいで、自然がたくさんあって、人がいなくて、とてもすてきな所でした。今日登るのは東尾根。たく山のきゆうな坂。土においで。それから、山でしか見られない景色。私にとっては、とても最高な場所でした。そして、夜はテント泊があります。今はねぶくろをしいて日記を書いています。明日はメインの守屋山を登ります。たく山ねて明日にそなえたいと思います。

【5年生 海の生活（5泊6日）】

とても美しい長崎県平戸の海。そのおだやかな海で5年間の水泳指導のまとめとして自分の力を試みます。泳ぐ力や体力、体調にあったコースに分かれて毎日練習します、最終日には、根獅子コース（約2km）、三角岩コース（約1.5km）、人津久コース（約800m）、波の子コース（年による）の4グループに分かれ、それぞれのコースで完泳を目指して遠泳を行います。

また、平戸市はキリシタン迫害の地であり、長崎県は原子爆弾が投下された町でもあります。キリシタンの歴史について知るために切支丹資料館を見学したり、長崎市内でフィールドワークをしたりすることもこの行事の大きな目標の一つです。

今回の遠泳は、最初で最後のものになると思います。だから、バディの友達とリーダーと完泳できるようにがんばろうと思いました。浜に向かう時、人津久の浜がいつもより近く感じました。

今日は遠泳本番です。遠泳を始めたときに「もう完泳できる」と感じました。

しかし最初から波があり、息がみだれてしまいました。リーダーが、「ブクブク、パッ。ブクブク、パッ。」と、リズムをとってくださって、息が落ち着きました。その後は、スムーズに楽しく泳げました。

私は、はじめは海の塩辛い水がのどに入ってあわててしまうだろうなと思って、海がこわかったです。でも、日に日に海が優しくなっていていってくれていると、今、気付きました。海、ありがとう。そして、完泳おめでとう。



【6年生 洋上小学校（8泊9日）】

1972（昭和47）年5月30日、初等部の校旗をマストに掲げた「かとれあ丸」が出航しました。そこから洋上小学校の歴史が始まりました。6年生が全員参加して、8泊9日の航程での船旅に出ます。子どもたちは船内活動、寄港地などでの活動を通して、海への畏敬の念、様々な人・文化遺産・自然との出会い、人との関わり大切さを学んでいきます。画期的な魅力ある行事として始まり、今では初等部伝統の行事となりました。



（前略）

洋上小学校最終日の午後、東京の竹芝が見えてきました。なぜかこの船から下りたくなくて、あまり東京の陸地を見たくないくらいでした。自分がこんな思いになるとは、洋上小学校前には思いもしませんでした。何よりもすばらしい船員さんたちに会うことができたのがいちばん貴重な経験でした。下船式では航海士さんと抱き合い、悲しかったです。でも僕は今回船員さんにしか教えてもらえないことを教わりました。たくましく生きる力と努力を忘れずに、ここをスタート地点として優しい船員さんのような人になりたいと強く思った最高の8泊9日間でした。



【3～6年生 雪の学校（4泊5日）】

1年の中で最も寒く、積雪の多い1月末から2月初旬。3年生から6年生は、キャンパスを長野県上水内郡信濃町の「ラボランドくろひめ」に移して、雪の学校を体験します。縦割りの20名ほどのグループでロッジに分かれ、6年生は衣食住すべての生活をリードし、3～5年生は6年生を支えながら共同生活を行います。戸外活動では様々な雪遊び、歩くスキーやスノーシューを使ったハイキング等を行い、雪に親しみます。



厳しい環境の中でも、まわりのことを配慮しながら、感じ、考え、行動する力を養います。

雪の学校が終わりました。来年は最上級生だなと思ったので6年生の動きを見ていました。

- ・ 机運びや乾燥室の整理の仕事を率先していた。机をどこに置くかなど、指示をしていた。
 - ・ 食缶運びで一番重い物を持ってくれた。
 - ・ 下級生に積極的に話しかけていたり、遊んだりしていた。
 - ・ ひとりぼっちの子が出ないように、みんなに男女問わず話しかけていた。
 - ・ 3年生の布団を運んであげていた。
 - ・ 急いで自分の布団をたたみ、下級生の布団をたたむ手伝いをしていた。
 - ・ 掃除をすぐに始めていた。
 - ・ 3・4年生が大変なとき「いいよ、やるよ。」といい手伝ってあげていた。
- ぼくも来年は6年生です。がんばります。



【オーストラリアホームステイ】【イングランドサマープログラム】

オーストラリア・クイーンズランド州のヌーサにあるグッドシェパード校で、毎夏休み2週間のホームステイプログラムを実施しています。キリスト教主義の私立学校で、初等部と雰囲気似ており、オーストラリアでの生活に溶け込む助けとなっています。現地では、日本文化を伝える授業を行っています。

イギリスはホームステイではなく、カンタベリーにあるコンコルドインターナショナルの寮に2週間滞在します。現地講師によるパフォーマンスアーツの授業を受け、英語でのミュージカル発表をします。



【止揚学園】

滋賀県東近江市にある止揚学園に4年生から6年生の希望者が3泊4日の短期留学をします。止揚学園は、知能に重い障がいを持つ人たちの施設です。

毎年、止揚学園の方々にあたたかく迎えられ、やきそばパーティー・運動会・貼り絵・散歩などのプログラムを通して交流します。子どもたちは、この交流を通して「生きるとは何か」「幸せとは何か」を考え、体験を通して、「違いを認める」ことを学びます。

(前略)

私が特に、みんなと仲良くなれたのは、2日目の午後に行われた運動会です。運動会は、名前当てクイズとリレーを行いました。私は、リレーが心に残りました。それはなぜかという、私のグループには、トヨコさんがいました。1回目、トヨコさんは保母さんと走りました。トヨコさんは、全然走らなくて、最初は歩こうともしませんでした。でも、2回目、私が一緒に走った時、つないだ手からトヨコさんはいまトヨコさんにできることをし、一生けん命歩いているんだと感じました。私はこの時から、止揚学園のみんなとたくさんおしゃべりをするようになりました。そして、これがきっかけでたくさんの人と仲良くなれました。だから私は、トヨコさんに感謝しています。

私は、ここに来て、考え方を一から学んだ気がします。弱い立場におかれた人のことをよく考えて行動する心、小さなことにも喜べる心、わたしたちはみんな一緒なんだということ……。そのことに感謝しています。



【フィリピン訪問プログラム】

毎月初等部でお捧げしている献金の一部は、フィリピンの貧しい子どもたちのためにCFJ（チャイルド・ファンド・ジャパン）を通して用いられています。そのプログラムの一環として、毎年3月に5年生数名と教員がフィリピンを訪れ、初等部がサポートしているフィリピンの子どもたちと交流しています。初等部、中等部、高等部、大学で共通のプログラムを実施し、「本当の豊かさとは何か」「幸せとは何か」などの大きなテーマを共に考えます。

私がフィリピンに行こうと思った理由は、わたしたちが支援しているフィリピンの子どもたちに会いたかったからです。頭の中の半分は「ヤシの木に登ったら楽しそうだなあ」ということでした。しかしフィリピンについてとたん「遊ぶ」と考えられなくなりました。フィリピンの現状を知ったからです。(中略)

「幸せ」とは何なのか。また、日本は幸せな国なのか考えてみました。日本は幸せな国で、フィリピンは幸せな国じゃないかという、わたしはどちらも違うと思いました。「幸せ」はモノがあればよいのではないと思うようになりました。確かにモノは必要です。でも、わたしは「人とのかかわり」も「モノ」と同じくらい大切だと思います。そのことを強く感じたのはギマラスでの出来事です。(中略)

私が人とのかかわりについて感じたのはわたしたち日本人にとっても優しく接してくれた現地の子どもたちとのかかわりだけでなく、フィリピン人同士の関わりもです。特に近所でのかかわりです。私たちのために集まってくれたのは、みんなご近所さんでした。わたしはマンションに住んでいます。私の住んでいるマンションには子どもがたくさん住んでいます。それでも顔を知っていて話したことがある子どもは10人に満たないと思います。フィリピンにはマンションがあるわけではありません。それでもご近所さんの友だちがたくさんいます。日本とは全くとちがうなと思いました。



8. 学級と校舎・児童在籍数

1学級は32人、1学年は4学級で、1学年の児童数は128人です。各学年とも、4人のクラス担任と数名の専門教科の教員でチームを組んで指導に当たっています。

2006年に完成した現校舎は、子どもたちの発達段階による生活の違いを考慮して、1年生から4年生までの教室がある「低中学年棟」と5・6年生の教室がある「高学年棟」に分かれています。

この2つの校舎を特別教室（音楽室、図工室、英語室、学習センター、ICTルーム）が結んでいます。



低中学年校舎全景



階段



低学年ウッドデッキ



プレイルーム



礼拝堂全景



日本庭園



青山学院初等部

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷 4-4-25

TEL 03-3409-6897 (初等部直通)

